広報 いまかね

教養をたかめ楽しく生活できる平和な町にいたしましょう。（町民憲章より）



'７３年

7月号

No. 181

親子そろって運動会

カラッと晴れ上がり、強い夏の日差しの照りつけた７月１日は、今金季節保育所の運動会。

日ごろ両親と離れがちな子どもたちも、この日ばかりは親子そろっての熱戦や、いっしょうけんめい練習した遊戯などで楽しい１日を過ごしました。

議会の動き

宝田地区に簡易給水施設

一般会計 二千九百万円を追加

第2回定例町議会

第二回定例町議会は、六月二十五、二十六日の二日間開かれ、補正予算、条例改正など議案九件を審議し、いずれも原案どおり可決しました。また、特別委員会で審議されていた町総合計画基本構想（内容は四、五ページで特集）が議決されました。なお、町長からは今年度各事業の進捗状況などの行政報告がありました。

この議会で決まったおもなことは次のとおりです。

◇一般会計補正予算

歳入歳出それぞれ二千九百十二万四千円が追加され、予算総額は十億三千九百四十八万八千円になりました。

追加のおもなものは、下金原橋掛け替え工事費に千百八十八万八千円、公営住宅建設工事費に四百二十万円、遠々昇格用地道路図作成委託料に二百万円、町道白石地区側溝補修工事費に二十七万八千円、宝田、トマンケシ地区簡易給水施設補助に七百二十一万四千円、上種川地区道路改良事業用地購入費に四十万円、豊田橋防護さく設置工事費に二十四万円、地籍調査事業費に五十一万八千円、季節保育所整備費に三十二万六千円、道民の船海外派遣金に二十万円、南団地集会所設置工事費に十七万一千円、共同転作促進対策補助に二十一万円、地質調査委託料に二十万円、タイヤ公園など敷地整地工事費に十二万円などとなっています。

これに対し歳入は、国庫支出金千五十九万九千円、繰越金七百六万八千円、道支出金六百九万七千円、町債三百七十万円が見込まれました。

◇陳情、請願

中里部落会からの中里橋の掛け替え、農協からの生産者米価に対する議会決議の要望の陳情書、今金営林署労働組合からの総合林政確立の要請方に関する請願がそれぞれ採択されました。

◇意見

七議員から出された❶函館開建利別川今金改修事業所の存置に関する要望❷今金営林署の存置に関する要望❸食糧管理制度の堅持と生産者米価の適正化に関する要望

大口の土地取得に特別土地保有税

◇町税条例の一部改正

地価の大幅な騰貴の原因になっている土地の投機取引を抑制するため地方税法が改正され、町税に『特別土地保有税』が創設されました。

この特別土地保有税は、土地の所有者に対して課税される『保有税』と、土地の取得に対して課税される『取得税』の二種類からなっており、保有税は昭和四十四年一月一日以後に取得した土地、取得税は昭和四十八年七月一日以後に取得する土地、それぞれ五千平方㍍以上に課税されます。

課税標準は土地の取得価格で、その税率は、保有税が一・四%、取得税が三%ですが、算出された税額からその土地の固定資産税、不動産取得税の相当額が控除されます。なお、相続や法人合併など形式的な所有権移転、農業の経営規模拡大などには課税されません。

保有税が昭和四十九年度から、取得税がことしの七月一日から適用され、保有税が五月末日、取得税が二月末日と八月末日までに申告し納付することになっています。

◇特別職の費用弁償額、町職員の旅費支給条例の一部改正

七月一日から、日当と宿泊料が引き上げられました。

◇一般職の給与改定

人事院勧告に準じ、一般職の給与が改定されました。

◇国保病院使用条例の一部改正

一般診断書料が一通五百円、体障害者診断書料が千円、体検察料が千円になりました。

◇火災予防条例の一部改正

生活様式の変化や災害発生の事例から消防庁の火災予防条例準則が改正されましたが、これに伴って改められたもので、おもなものは次のとおりです。

▽移動式石油ストーブには、地震などの場合に自動的に消火する装置を設ける（昭和五十二年九月三十日から適用）

▽ストーブの煙突、煙道に火粉の飛散防止の措置をする。

▽枯れ草などを放置したあき地の所有者は、火災予防上必要な措置をする。

▽避難口及び屋外の避難通路は凍結、積雪により避難の支障とならないように維持する。

平均四万六百円に

国民健康保険税

◇国民健康保険税条例の一部改正

医療費は昨年に比べて四〇・六%の伸びが予想されていますが、被保険者の負担を極力軽減するため一般会計からの繰り入れなどで保険税は前年度当初に比べ二三%増に押えました。

これにより今年度の税率が、所得割百分の二・八、資産割百分の四四・〇、均等割（ひとり当り）三千三百三十円、平等割（一世帯当り）五千七百二十円に改められたものです。

なお、一世帯当りの平均税額は四万六百三十七円、ひとり当り一万二百二十八円になります。

低所得者に対する軽減措置も改められました。所得十六万円以下の四人家族で九千六百五十円の減税、また、十六万一円以上の所得の場合は、家族ひとりふえるごとに対象所得が十万円ずつ加算され四人家族では所得四十六万円で六千四百五十円の減税になります。

◇国保病院使用条例の一部改正

一般診断書料が一通五百円、体障害者診断書料が千円、体検察料が千円になりました。

火災予防条例を改正

◇火災予防条例の一部改正

生活様式の変化や災害発生の事例から消防庁の火災予防条例準則が改正されましたが、これに伴って改められたもので、おもなものは次のとおりです。

▽移動式石油ストーブには、地震などの場合に自動的に消火する装置を設ける（昭和五十二年九月三十日から適用）

▽ストーブの煙突、煙道に火粉の飛散防止の措置をする。

▽枯れ草などを放置したあき地の所有者は、火災予防上必要な措置をする。

▽避難口及び屋外の避難通路は凍結、積雪により避難の支障とならないように維持する。

より正確な台帳に

実態調査を実施



町民のみなさんの住居や資格に関することを記録しておく『住民基本台帳』をより正確なものにしようと、居住の実態について調査が行なわれます。

この台帳は、住民登録、選挙、国民健康保険、国民年金、義務教育、予防接種、印鑑登録などの基本になるたいせつなもので、みなさんが、就職、入学、登記、各種保険、自動車運転免許、恩給、印鑑証明などの手続きを行なうさいに、正確でないとご迷惑をかけることにもなりかねません。

住民基本台帳は、住民ひとりひとりに必ずついてまわるものです。

この機会に、転入、転出、転居などの移動があったときは、すみやかに届け出ることを再認識したいものです。なお、これらの届けは法律で十四日以内と決められています。

実態調査は、昨年の部落に引き続き、ことしは今金市街地を中心に七月下旬から八月上旬にかけて行なわれます。

調査員が伺いましたら、よろしくご協力をお願いします。

町民の心意気を表現しよう

町民センターに保存後世に継承

昨年九月着工した待望の町民センターは、七月中に完成、八月中旬開館の予定です。

このセンターは、町民の心の寄りどころ、いこいの場として、また、文化、教養、福祉の向上、産業開発のため広く利用され、大いに役だつものと期待されています。

これを契機として、現在、全町民が融和と力強い結束によって、明るく豊かで住みよい郷土建設にまい進している町民の心意気を表現してみてはいかがでしょうか。

団体やグループ、個人でもけっこうです。みなさんの作品などを町民センターに長く保存し、後世に継承しますので、どしどし応募してください。

水防体制の強化など

三議員から一般質問

第二回定例町議会で三議員から一般質問があり、町長と教育長が回答しました。

おもな内容は次のとおりです。

◇美利河ダム着工の見通しは＝調査は五年目にはいっており、国の直轄でやるか、道の補助事業でやるか今年度中に結論が出る見込みだ。防災だけでなく発電など多目的なものも考えている。

◇水防体制の強化を＝水防団員は消防団員が兼務しており、消防団と協議し訓練を実施するよう検討する。また、利別川の支流河川でも水位観測を行なうなど、水害を未然に防止するため万全を期す。

◇集団カゼで臨時休校が相次いでいるがその対策は＝授業の遅れは学校行事の集約、夏、冬休みの短縮など各学校で措置してもらう。今後、専門医とも十分協議して、うがい、予防接種の完全実施などの対策を講ずる。また、北部桧山三町で学校保健委員会を設置する計画がある。

◇公害のない工業誘致を積極的に進め、農工一体の豊かな町づくりを＝公害のない企業、公害対策を完備した企業を誘致しようと工業団地も準備して進めている。美利河地区には養豚団地など計画しており、住民の意欲に期待したい。

◇重度身障者（一～二級）の医療費無料化を道に先がけて九月から実施する考えはないか＝財源の見通しがつけば実施したい。

実態調査は、昨年の部落に引き続き、ことしは今金市街地を中心に七月下旬から八月上旬にかけて行なわれます。

調査員が伺いましたら、よろしくご協力をお願いします。

◎町職員の人事◎

【六月一日】▽総務企画課長兼調査係長兼災害消防係長兼広報係長　森野庄平▽同課庶務係長兼職員厚生係長　吉田英俊▽同課管財係長　下山更治▽同課調査係兼災害消防係　村上規雄▽財政課徴収係長兼税外係長　亀谷文也▽同課第二賦課係　鈴木捷▽同課財政係　池田常教▽福祉労政課福祉労政係長　稲垣武雄▽同課国保年金係　細田征夫▽同課福祉労政係　南川康男（新採用）▽耕地課地籍調査係長　浜田邦男▽同課土地改良係長兼換地計画係長　高橋保▽同課地籍調査係　鎌田信隆▽同課同係　佐久間優一▽農政課農政係　中野寛（新採用）▽選挙管理委員会書記兼総務企画課庶務係　吉村教聖▽議会事務局書記　八重樫昌雄▽保育所保母　松橋悠子（新採用）▽退職　鈴木恵子（保育所保母）

【七月一日】▽保育所保母　夕下美枝子（新採用）

◇感謝します◇

光の里建設資金に、桧山社会事業奉仕団（代表天満浩さん、瀬棚町）から一万円、犬上孝子さん（緑町）から病気全快祝返しをやめて二万円、相原建二郎さん（田代）から金一封がそれぞれ寄付されました。

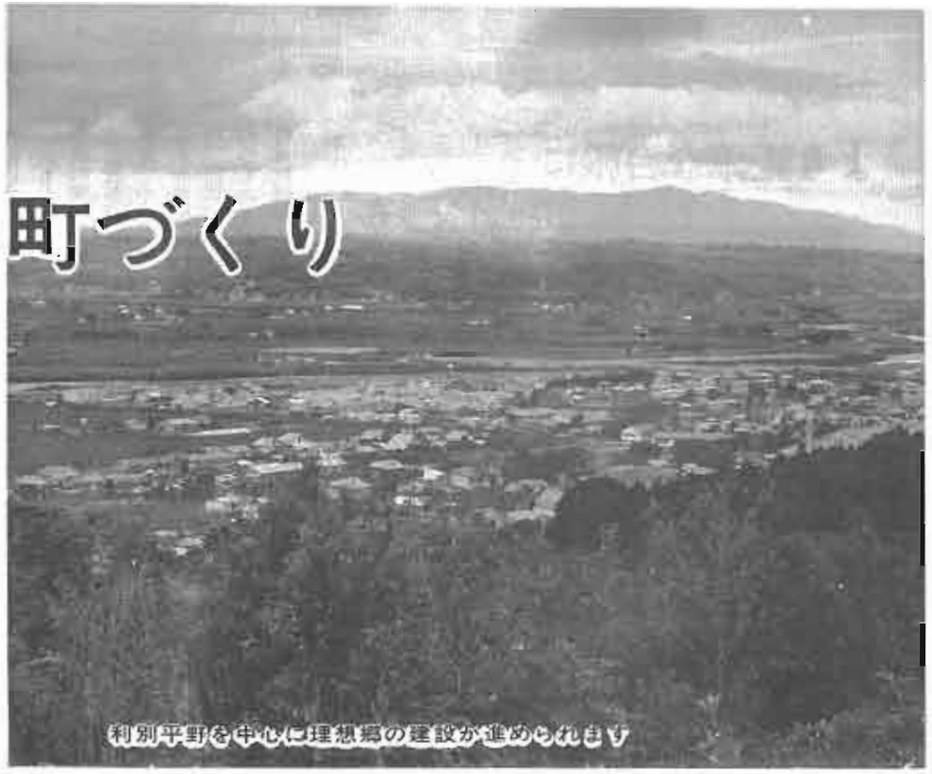
高生産、高福祉の町づくり

今金町総合計画を策定

高生産、高福祉の中核都市“いまかね„の建設ーを目ざす『今金町総合計画』が策定されました。

この計画は、今後町が進むべき方向と施策を明らかにしたもので、いわばわたしたちの町が8年後にあるべき姿の青写真ともいえるものです。

今月は、基本構想のあらましについて紹介します。


利別平野を中心に理想郷の建設が進められます

町の進む方向と施策を明らかに

道路網整備など八つの基本目標

わたしたちの町は、豊富な農林資源を背景とした産業の振興により、着実な発展をしてきました。

しかし、経済社会の高度成長、貿易、資本の自由化などきびしい国際環境のものに全国的な動向として過密、過疎、産業格差、地域格差などをひきこおし、本町においてもこれらの影響を受けて人口の減少、若年労働力の不足など困難な問題に直面しています。

このような移り変わりの激しい社会環境に対応しながら、これらの問題を解決するため、本町の自然的、社会的な諸条件を十分認識し、国、道の開発計画などと密接な関連のもとに、町民の意見が反映された長期的総合的な開発政策を推進しなければなりません。

このことから、本町に潜在する開発可能な諸条件を最大限に生かし、産業、経済の飛躍的発展と明るく豊かで住みよい町づくりに積極的に取り組む道しるべとしてつくられたのが『総合計画』です。

この計画をたてるにあたって❶道路交通、通信網の整備❷農業構造の高度化と農業所得の増大❸保健医療施設の整備❹商工業振興対策の推進と農村工業の誘致❺社会生活環境の充実と文教施設の整備❻都市計画地域の整備と上下水道の実施❼効率的な広域行政の参画❽治山治水の整備と観光開発ーの八つを基本的な目標にしています。

昭和55年の人口を一万三千人に想定

この基本目標を進めるための基礎となる町の人口は、昭和四十五年の一万一千七百四人に対し、目標年次の昭和五十五年には一一%増の一万三千人になるものと想定し、世帯数においては、一世帯構成員を三・五人とし三千七百二十世帯に想定しました。

また、目標年次における就業人口は五千七百五十八人と想定。第一次産業（農、林業）は経営規模の拡大による主業化が進み減少、第二次産業（建設、製造、鉱業）は産業構造の近代化による生産性の向上で増加、第三次産業（卸小売、サービス、公務、運輸通信業など）は観光産業の発展などによる増加が予想されます。

本町の経済は、今後経営規模の拡大と農業構造の改善で、将来は高生産、高所得の実現にその重点がおかれ、生産所得の飛躍的な増加が期待されます。

このことから目標年次の産業別生産所得は、第一次産業が基準年次の一・八倍の二十億二千三百万円、第二次産業が二・四倍の十一億六千百万円、また第三次産業も生活水準の上昇、観光客の入り込みなどで増大するものと推定されます。

計画のしくみ

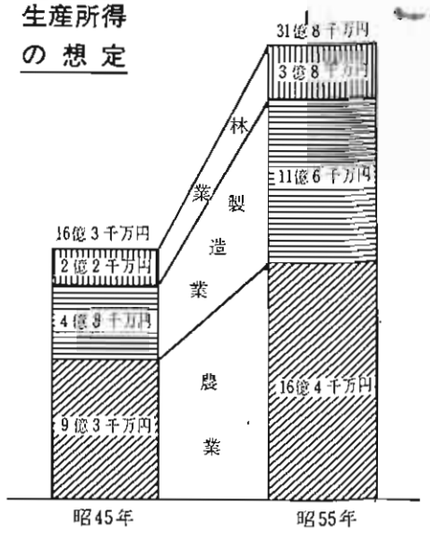
この計画は、昭和四十八年度から昭和五十五年度までの展望と施策を明らかにしたもので、町行政の運営指針となるものです。計画の内容は、大別して『基本構想部門』と『基本計画部門』からなっています。

基本構想は、町の経済、社会的な現況と国、道の諸計画を見極め、町の特性を生かした将来像を示しており、基本計画は、構想にしたがって行政を合理的積極的に進めるための具体的な施策を示しています。これは、今後の情勢の変化に対応して常にその実態と対比、分析を行ない、修正する弾力性をもっています。

人口の推移と想定

区　分	昭和40年	昭和45年	昭和55年
総人口	12,447	11,704	13,000
生産年齢人口	7,368	6,788	7,280
就業人口	5,828	5,369	5,758

生産所得の想定



北部桧山の拠点に

魅力ある町として繁栄していくには、どのような見通しをもったらよいでしょうか。

第一次産業中心の本町として農業振興は生命です。国営利別川左右両岸かんがい排水事業の完成とともに農民の意欲を盛り上げ、経営構造の改革などで他産業に対抗し得る農業経営体の確立が必要です。また『鉄道新幹線網』『高速自動車道』の新設など交通革命によって、地域に適する農村工業の誘致と新鮮な空気に恵まれた観光資源の開発など促進して人口流出を防止、北部桧山地域の経済、社会生活の拠点都市として自主的に体制の整備を図らなければなりません。

このような考え方のもとに『基盤整備』『社会開発』『産業振興』の三つに分けて基本構想が立てられています。

基盤整備計画では、土地利用、水利用、まちづくり、道路整備、交通通信、国土保全の六項目、社会開発計画では、住宅、上下水道、清掃処理、生活改善、社会福祉、保健衛生、公害対策、教育文化、安全都市対策の九項目、産業振興計画では、農業、林業、商工業、鉱業、観光の五項目ーと、キメ細かくその構想が示されています。

この構想の内容と事業計画については、来月号から連載でご紹介します。

百七十七億円の事業

この計画に基づく事業を実施するためには、約百七十七億円に及ぶ費用を要します。

このため、大規模な計画的先行投資が必要ですが、町自体が行なう投資力にはおのずと限度があるため、国、道、町がそれぞれ開発機能を分担し、調整のとれた効率的な投資を考えなければなりません。特に、道路、産業基盤及び社会基盤の整備に重点的な資金投入を強く国、道に要望するとともに国、道の長期開発計画と連携を保ちつつ開発を進めます。

また、町財政については、長期的視野にたった財政計画の樹立と効果的運営をはかり、消費的経費の節減に努め、税収など自主財源の確保などにより投資的経費の増大を図ります。

計画を実施する町の行政は年々複雑になり、仕事の量も増大してきます。こうした情勢に対処し、より多くの資金を町民の福祉にふり向けるため、行政機構を町民本位のものにしなければなりません。

具体的には、機構の改革、事務の改善合理化、民間機能の活用、広域的事務の共同処理など最少の経費で最大の効果を発揮するよう行政の近代化を図ります。

また、行政にたずさわる町職員の資質を向上させるため、積極的に研修を受けさせ、広域行政圏内の人事交流についても検討します。

町民総参加で推進

さらに、計画を推進して目標に到着するためには、町民のみなさんの意欲と連帯感が特にたいせつです。各行政機関、経済団体など住民総参加で、みなさんとの話し合いのもとに理解と協力を得、目標達成にまい進します。

計画が決まるまで

昭和四十五年に総合計画推進事務局を設置して草案の作成を開始、昭和四十六年三月には、町議会議員、各団体長、学識経験者など三十人からなる策定審議会（加藤五郎会長）がスタートしました。

町長から諮問を受けた審議会では、行政、経済、社会の三開発部会に分かれ、部会ごとに現況と問題点をとらえながら協議を重ねてきました。各部会ごとにまとめられた計画は、審議会の総会でさらに検討を加え、町民の総意として町長に答申されました。

さらに、基本構想をことし三月の定例町議会に提案、町議会では特別委員会を設けて慎重な審議の結果、六月二十六日の本会議で議決されたものです。

五十の能力を百に発揮

ヨーロッパの特殊教育(5)

イギリス　程度別の職能訓練

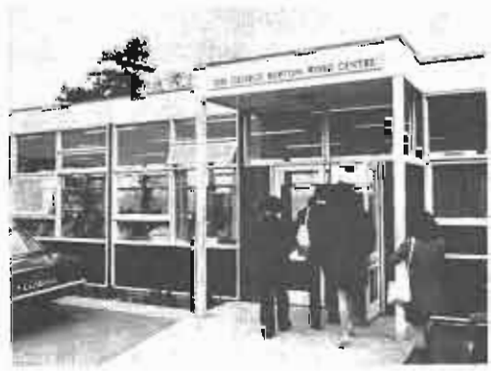
『ゆりかごから墓場まで』と、社会福祉の高さをうたわれるイギリスでは、おとなの知恵遅れの人たちのための福祉作業所を見ることができました。最近、東京でも親の会などの運動によってつくられはじめていますが、設備、指導内容には相当の開きがあるように思われました。

ここは、十六歳から五十二歳までの心障者百五十人を収容し、最低一年以上職能訓練をする、日本の職業訓練所のような所です。

作業は、それぞれの障害の程度に合わせられており、ボール紙を折り曲げる、台紙からはずす、というような簡単なものから、ドリルで部品に穴をあけるなど、より複雑なものまでさまざまです。内容についても細かい配慮とくふうがなされています。たとえば、大きな紙袋作りのところでは、きちんと寸法通り折るためのものさしがあり、ビニールの電線を輪にするためには巻機があり、そのビニールは長さを一定にするための木のみぞに差し込んで切るというようになっていました。

それぞれの場では、指導者がいなくても自分たちだけでその作業ができるよう配慮されています。

さらに、ただ働かせるだけでなく、体育的、家庭的な訓練も取り入れ、それぞれが喜びに満ちあふれて学習していました。



イギリスのりっぱな福祉作業所

これらを保障しささえているのは、年金や国の援助です。

それらを見ながら私が感じたことは、この人たちは五十の能力を百に発揮しているということです。

もし『人間の値うち』を考えるならば、百の能力を持っていながら五十しか出さない人よりもとうといのではないでしょうか。

普通の生徒に高校、大学というコースがあるのに、彼らには義務教育しかありません。それも、就学免除あり猶予ありで満足な現状ではなく、わずかに施設がその機能を果たしているに過ぎません。

私は、心障者でも全く同じ人間だ、という立場から、当町に開園される『光の里学園』が、彼らの高校、大学としての役割を果たす日を夢みています。

柴谷勝俊記（今金中教諭）

気軽に参加を

今金で桧山婦人大会

婦人団体の飛躍的な活動とより豊かな生活をと、第二十回桧山婦人大会は、八月四、五日の二日間今金小を会場に開催されます。

ことしは、桧山に婦人団体連絡協議会ができて二十年目に当たりこの記念式典も合わせて行なわれます。

『学習と親睦』を目標に❶戸原藤七氏（北海道報徳社専務理事）の講演『明るい家庭と人間関係』❷生活に身近かな九つのテーマに分けての話し合い❸実情発表❹町内視察見学❺盆おどり大会、など研修と楽しさがおりまぜられています。

婦人会など団体やグループにはいっていない人でもけっこうです。

桧山の婦人として意義ある二日間を多くの人たちと過ごしてみませんか。この機会をのがさず、気軽に参加しましょう。

道民の船に二人の農業後継者

アジア諸国を訪問し研修する『道民の船』に、今金町を代表して二人の新成人を迎える農業後継者の村上隆文さん（稲穂）と村瀬重一さん（八束）の二人が派遣されます。

道内四百七十二人の新成人や家庭婦人を派遣する道民の船は、十一月二十七日から一カ月間、韓国香港、タイ、シンガポール、フィリピンなどを訪問、洋上における船内研修、現地青少年との交歓、視察などを通じて相互学習を深め視野の拡大を図ってきます。

第3回　産業まつり

とき／8月14日～16日
主催／今金町産業まつり振興会
催し／歩行者天国、びっくり市、物産展
愛犬展覧会、野外演芸会
少年野球大会、千人おどりほか

ボウリングや牧場見学など
楽しい催しがいっぱい
とき／　8月14日　ところ／町民センター
対象者／昭和28年1月16日から昭和29年1月15日までに生まれた人

第25回　成人祭

盛大に完工式

高原模範牧場と冷凍食品加工施設





酪農と畑作は米に次ぐ本町の基幹産業のカギを握るとみられる『今金高原冷凍食品加工施設』が相次いで完成、主催の完工式が六月十七日盛大に行なわれました。

快晴のこの日、町内外から約三百人が出席、神事のあと施設を見学しましたが、高さ二十㍍のマンモスサイロ、授乳から飼育、受胎まで一貫した近代的設備、雄大な草地の模範牧場、二百二十五㌧の食品を収容する冷凍施設に目を見張っていました。

くらし

子どもの非行や事故を防ごう



子どもたちが待ち望んでいた夏休みがやってきます。真夏の太陽のもとで、心身ともに健やかに成長してもらいたいものです。

しかし、学校生活からの解放など気持ちのゆるみから、非行に結びつく危険性が多いのもこの時期です。親の目の届かないところで夜遊び、飲酒、喫煙などの不良行為が行なわれ、しだいに非行化していく例があります。

夏休みを楽しく有意義に過ごさせるため、次のことに心がけるとともに、両親をはじめ地域の人たちが子どもの生活に強い関心をもち、しっかりした指導をしよう。

▽暖かい家庭のふんい気をつくり子どもと楽しく語り合う場をもつ。

▽計画性のある規則正しい生活を指導する。

▽外出は、用件、帰宅時間、行先を聞き、とくに夜間の女子のひとり歩きはさせないように。

▽海水浴、キャンプなどは、家族といっしょに行くか、責任のある引率者と行かせる。

▽アルバイトは、保護者が仕事の内容を確かめ、勤め先と連絡をとり合う。

▽花火遊びは広い場所を選ぶようにし、水なども用意しておとなが見守るなかでさせる。

お知らせ



■心に悩みのある方はぜひ

道立精神衛生センターの専門医師、臨床心理士のメンバーと今金保健所が共催で、次により精神衛生相談が行なわれます。

心の悩みのある方、家族などに悩みのある方はぜひ相談にお来しください。個人の秘密は守ります。

▷とき　7月31日(火)午前10時から午後2時まで

▷ところ　今金保健所会議室

■身体や心身障害の相談が行なわれます

身体と心身に障害のある人の各種相談が次により行なわれますので、遠慮なくご利用ください。

▷身体障害者(児)巡回診療更正相談＝8月3日午前9時から正午まで、瀬棚町老人と母と子の家診療科目は、整形外科、眼科、耳鼻いんこう科。

▷心身障害者(児)巡回更正相談＝8月14、15日午前9時から午後4時まで、町民センター。

▷肢体不自由児巡回療育相談＝8月中に、北桧山町公民館

■戸籍手数料が70円に

法律の改正により、7月1日から戸籍謄本、抄本の手数料が1枚につき70円に変わりました。

■税務大学校の学生を募集

国税庁では、昭和49年度に入校する税務大学校の学生を募集しています。昭和28年4月2日から昭和31年4月1日までに生まれた男子で、国家公務員採用初級試験（税務）の合格者の中から選ばれます。希望者は8月3日までに人事院北海道事務局へ申し込みを。



体育指導委員を派遣します

スポーツに親しみ、心にゆとりをもった健康で明るい生活を―と教育委員会では、地域のみなさんがスポーツをしようとするとき、体育指導委員を派遣して指導や助言をすることにしました。

スポーツの技術ばかりでなく、地域の人たちがどんな方法でも小人数でも一日のくつろいだ時間気軽に楽しくスポーツ（からだを動かす）しようという希望がありましたら、部落町内会長さん、または代表者が公民館にご連絡ください。直接、次の体育指導委員に連絡してもよろしいです。

なお、これまでどおり夏季の水泳コース（今金小プール）冬季の基礎スキーコース（西の杜スロープ）のスポーツ教室も開かれます。

▽体育指導委員　中野武房（桧山北高・南栄町）新田竜二（今金小・寒昇）浜栄三（今金小・日の出町）阿部幸治（今金中・南栄町）黒田友近（今金中・南栄町）竹田誠司（今金駅・八幡町）中井誠司（役場・昭和町）外崎秀人（外重鮮魚店・末広町）坂本博之（種川中・種川）山口利勝（花石小・花石）

スポーツ障害保険に加入しよう

運動中に起きるケガが多くなっています。『自分だけはだいじょうぶ』と思っている人こそ要注意です。落し穴はどこにあるかわかりません。

スポーツ傷害保険は、安い掛金で万一の保障をします。

十人以上のスポーツ団体や社会教育団体の構成員が加入でき、ひとり当たり年間百円から二千六百円までの保険料で死亡（百万円）のほか後遺障害、医療保険金も支払われます。

加入の手続きは公民館で受け付けていますが、ことしは七月二十九日までで締め切られます。急いで加入しましょう。

納期内に納めよう

固定資産税《二期》
国民健康保険税《一期》

七月三十一日まで



■若ものたちが草刈り奉仕

荒れた旧高校グラウンドをきれいに―と、青年団体連絡協議会の会員二十人が六月二十七日、農作業用の草刈り機を持ち出し労力奉仕。長く伸びた草もみるみるうちに刈り取られ、これで陸上の練習もできると満足そうでした。

住民の動態

	前月にくべ比
人口	10,644（−30）
男	5,213（−10）
女	5,431（−20）
世帯	2,746（−4）

（5月31日現在の住民基本台帳人口）

▽たんじょうおめでとう

山本　知也（靖彦　二男）鈴岡　関口　秀樹（洵　二男）種川　柱川　博勝＝柱川　哲子　田代
黒須理絵子（敏彦　三女）八幡町　黒須理絵子（敏彦　三女）八幡町　水野　末吉＝村瀬　広子　金原
中島　章樹（佑幸　長男）旭町　中島　章樹（佑幸　長男）旭町　小田　寛二＝石田加代子　南町
大塚　一（徹　長男）日出町　大塚　一（徹　長男）日出町　**◆おくやみもうしあげます**
佐藤　珠美（広男　長女）末広町　佐藤　珠美（広男　長女）末広町　伊藤　周一　七十四歳　中里
平原　路子（善栄　長女）八束　平原　路子（善栄　長女）八束　小崎徳太郎　八十三歳　高美町
染谷　昌宏（明　長男）日出町　染谷　昌宏（明　長男）日出町　古山　藤吉　七十六歳　旭台
相原　靖彦（建二郎　二男）田代　相原　靖彦（建二郎　二男）田代　中村　キミ　七十七歳　南町
出村　隆（幸雄　三男）東町　出村　隆（幸雄　三男）東町　山口次郎八　七十二歳　田代
▽いつまでもしあわせに　**▽いつまでもしあわせに**　伊藤　佐蔵　七十歳　金原
黒宮　一三＝加藤　照子　中里　黒宮　一三＝加藤　照子　中里　（五月分）

＝広報＝トピックス



■ニジマスの稚魚を放流

釣り資源を確保しようーと、町では昨年から始めていますが、ことしも六月二十九日、千歳のふ化場から取り寄せた稚魚約一万匹を種川の下ハカイマップ川に放流しました。四、五㌢の稚魚も秋には十㌢ほどに成長し、釣り人たちを楽しませることでしょう。

発行・北海道今金町役場　編集・総務企画課　印刷・長門出版社　発行・48・7・18